

平成30年10月5日
独立行政法人日本スポーツ振興センター
広報室

《ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス 2018 情報 第2弾》

ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス 2018～平昌から東京へ～

海外からの基調講演者3名のプロフィールをご紹介します。

今年のハイパフォーマンススポーツ・カンファレンスでは、平昌での支援活動から得た知見や世界の動向を振り返り、現在東京へ向けて動き出しているプロジェクトの現在、そして迎える2年後の展望を、世界の第一人者をゲストに迎えながら10月23日(火)、24日(水)の2日間にわたり開催します。

海外から招聘する3名の基調講演者のプロフィールをご紹介します。

基調講演者プロフィール

<p>アン・マークリンガー</p> 	<p>カナダ・Own the Podium CEO オリンピック(カーリング)。1979年ユニバーシアード大会競泳女子200m平泳ぎ銀メダル取得等、競泳選手として活躍の後、カーリングに転向。カナダ国内の主要大会を4度制覇するなど、トップカーラーとしても結果を残した。引退後はカナダカヤック協会の事務局長に就任。障がい者スポーツ関係団体等でも要職を歴任し、20年以上に渡りスポーツ関係団体の運営等に従事。Own the Podiumでは夏季競技担当責任者を務めた後、2012年より現職。カナダ女性スポーツ振興協会(CAAWS)やカナダ国内の競技会の運営団体等、スポーツ関連ボランティア経験も豊富。</p>
<p>ルイズ・パーク</p> 	<p>オーストラリア国立スポーツ研究所(AIS)主任栄養士 エリートアスリートの教育・カウンセリングにおいて、スポーツ栄養士として35年以上のキャリアを持つ。AISスポーツ栄養部門にて、1990年の設置以来現在までの長き渡りリーダーを務める。1996-2012年夏季オリンピック大会にてオーストラリア代表チームの栄養士として従事。これまでに研究論文や書籍寄稿を含めて300以上出版し、スポーツ栄養学の教本も多数執筆・編集している。2009年にはその功績によりオーストラリア勲章を受章。</p>
<p>ポール・ワイルマン</p> 	<p>ブリュッセル自由大学 教授 オランダオリンピック委員会・スポーツ連合(NOC*NSF) TeamNL Performance Behavior Performance Manager 専門はアスリートキャリア、トップアスリートの心理学的能力、ハイパフォーマンススポーツにおける心理サポート。オリンピック等の主要国際大会における選手・指導者への現場サポートに25年以上に渡り従事。2013年よりNOC*NSFにて現職に就任し、心理学者等からなるサポートチームを牽引。東京2020大会に向けてもサポートを行っている。ヨーロッパスポーツ心理学会・元会長。2017年国際応用スポーツ学会(AASP) Distinguished International Scholar 受賞。</p>

■ 独立行政法人日本スポーツ振興センターウェブサイト
<https://www.jpnsport.go.jp/>

■ ハイパフォーマンスセンターウェブサイト
<https://www.jpnsport.go.jp/hpc/>

プログラム Program

10/23(火)

13:10 ～ 14:20	平昌 2018 大会におけるハイパフォーマンスセンターの医・科学サポート活動 平昌 2018 大会に向けてハイパフォーマンスセンターでは様々な医・科学サポートを行いました。競技現場からの声と共に各種支援の取り組みを振り返り、平昌 2018 大会での成果や課題を整理し、東京 2020 大会を含めた今後にどのように活かすべきかを議論します。		
14:30 ～ 15:30 基調 講演	カナダにおける国際競技力向上戦略 講演者: アン・マークリンガー カナダは自国開催となるバンクーバー2010 冬季大会に向け、スポーツ関係機関が合同戦略「Own The Podium (OTP)」を策定し、最多メダル獲得国に輝きました。その後の変遷を経て OTP は現在も各競技への投資戦略決定機関として重要な役割を担っています。この度 CEO のアン・マークリンガー氏をお招きし、カナダにおける近年のメダル獲得戦略をご紹介します。		
15:50 ～ 17:00	アスリートデータが スポーツ現場を支える ～データでつながるプロフェッショナル支 援・連携～	15:50 ～ 17:40	2028 年、あなたは何をしていますか?～デュアルキャリアのすすめ～ 人生 100 年時代の自分のために

10/24(水)

9:00 ～ 10:00 基調 講演	エリートアスリートのための栄養サポート戦略 ～ オーストラリア国立スポーツ研究所(AIS)28 年間の軌跡 講演者: ルイーズ・バーク オーストラリア国立スポーツ研究所(AIS)のスポーツ栄養部門を設立から率いると共に、国際的権威として長年世界のスポーツ栄養学も牽引するルイーズ・バーク氏から、これまで AIS で取り組まれてきたエリートスポーツにおける栄養サポートの変遷についてご紹介いただきます。		
10:10 ～ 11:20	ハイパフォーマンスセンターのトータル サポート～レスリングの事例～	10:10 ～ 11:10	パスウェイ推進のすすめ～革新的なタレント発掘・育成の取組をしたアスリートの事例から～
11:10 ～ 12:00			2020 年以降を見据えたアスリート育成強化のプランニング
12:50 ～ 13:40	ハイパフォーマンススポーツにおける女性の活躍 ～女性エリートコーチ育成は「誰」が取り組む? ～	世界で勝ち続けるには理由(わけ)がある～リーダ ーに求められる 18 の特性～	
13:50 ～ 15:00 基調 講演	ハイパフォーマンスにおけるコーチング手法～Performance Behavior～ 講演者: ポール・ワイルマン 海外ではパフォーマンス向上におけるアスリートの「ウェルビーイング」が注目され始めています。オランダでは心理学者や精神科医等の専門家から成る Performance Behavior グループがナショナルチームのメンタルサポートにあたっています。そのグループを統括するポール・ワイルマン博士から、「Performance Behavior」の学術的背景やヨーロッパの事例をご紹介します。		
15:10 ～ 16:00	大会における感染症対策	東京 2020 大会の価値ある成功に向けて ～価値を失わせる脅威に対峙する～	
16:10	東京 2020 大会を 2 年後に控えた今、医・科学ができること		
17:15	世界が目指すところ、そしてハイパフォーマンスセンターが目指す姿		

※同時通訳あり